

第3回里山学びと交流の森検討会会議録要旨

日時

平成14年2月12日(火) 午後1時30分から午後4時15分まで

場所

愛知県産業貿易館西館9階第2会議室

出席者

大竹勝委員、賀来宏和委員、加藤裕重委員、加藤倫教委員、木村光伸委員

津田美知子委員、出口なほ子委員、波田善夫委員、馬宮孝好委員

(鈴木敏明委員及び林進委員は、欠席)

・開会

1. あいさつ(愛知県国際博推進局中谷局長、木村座長)

2. 議事

木村座長

・本日の議事録署名は、津田委員と出口委員にお願いする。

(1) 里山学びと交流の森づくりの方向について

事務局

・資料1「里山学びと交流の森づくりに関する意見等」について説明

木村座長

・前回の意見は、非常に多岐に渡っており、だいたい一巡したところで議論の時間が尽きた。引き続いて、本日は、なお議論を要すること、質問等を出していただき、議論を深めていきたい。

・そんなに結論を急ごうとは、思っていない。皆さんは、海上の森をよくご存じであり、忌憚のない意見交換をして、方向性を見出していきたい。

・二年前の集中豪雨で、山全体が非常に荒れた状態で放置されているが、議論が終わるまで手を付けないわけにはいかないなので、合意を得ながら進めていきたい。

波田委員

・今回の資料で、非常に的確にまとめられていると思う。

・前回「海上の森はみすばらしい」という座長の意見があったが、本当にそう思う。面積的なまとまりを除けば、海上の森は、普通の森だと思う。

・特別な森を特別な視点から解説するのは、わけもないが、普通の自然をいかに面白く、自然

観察を効果のあるものするのが、非常に難しい。

- ・色々な情報がたくさんある森は、非常に少ない。情報をたくさん集積することが出来れば、自然教育の場として素晴らしいフィールドになる。素晴らしい海上の森というのは、非常にたくさんの情報がある、よく分かっている森だと思う。

- ・まず、自然観察をするという観点からの調査が、必要である。情報が積み重なり、最終的にソフトが出来てくる。相手は生き物なので、その場をつくるのに、ものすごく時間がかかる。また、解説をする人を育てるのも、相当時間がかかるので、全体的な動きから言えば、出来る限り早く動いた方が、いい成果が望めると思う。

木村座長

- ・この地域の中で、非常によく分かったところが、海上の森だと思う。それでも十年程度の蓄積でしかないので、これから時間をかけて、学習の場としての情報集めをしなければならない。

- ・時間が無いので、博覧会までにとという話は、到底難しいが、来た人には見てもらいたいというギャップをどう埋めるのか、話し合いたい。

大竹委員

- ・前回、全体をどう方向付けていくのかが、基礎において重要であると申し上げた。まず、最初にきちんとした理念をつくっておかないと、また初めから検討し直すという話が、必ず出てくる。

- ・まず、全体をコントロールするところをつくらなければならない。自然相手の仕事は、非常に時間がかかる仕事であり、それと並行してきちんと方向性を出さなければならない。

- ・里山をどうするのかというためには、常に山を見て、常に情報を集積していかなければならないので、恒久施設の中に研究が必要だと思う。「展示」という言葉だけが出てくるが、資料を多く集積していくために、研究の中から展示が出来る体制を、きちんとつくる必要がある。

木村座長

- ・全体の方向性を継続的に議論出来る場づくりをしていなければならぬということだが、これは、会議体の問題というより、むしろ県、事務局体制の問題かもしれないが、それぞれ与えられた課題で、万博に関連した会議の流れが出来ないというかなり辛辣なご批判だと思う。

馬宮委員

- ・合意に達するには、時間がかかるので、例えば、ひとまずいくつかの項目を集中的に議論して、共通点を探り、程度の枠組みが決まれば、その後、次の項目を話し合っていく、こういった議論を重ねることで、有意義な会になってくると思う。

木村座長

- ・言いたいことを言い尽くすことは、あり得ないと思うが、言いたいことはきちっと言っておかないと、次の整理に進めない。

- ・基本的な取り組みの方向とか、海上の森をどう特徴付けるかという話は非常に大事な話だが、

それぞれ皆さんの経験とか、今後の方向性とリンクしており、簡単に切り離すことは出来ない。

- ・お互いの意見や考え方、方向性の違いを露わにしておいた方がいいと思う。ここで時間を節約しても、今後の実りに繋がるかどうか、心許ないので、突っ込んだ議論をしておきたい。
- ・かなり息の長い話であり、基本的な意見というより、むしろ思いの食い違いを、出来るだけ解消するように、お互いの理解の不十分さもあるので、少なくとも今日は、とことん議論させていただく。

馬宮委員

- ・今は、国際博推進局がやっているが、万博後にやる予定のところがあれば、先の見通しも立っていいと思う。この辺りが出来ないのは、法制上の問題があるのだと思う。だからこの資料1の項目に、法制上の問題という項目を追加して欲しい。

木村座長

- ・この件に関しては、第1回の会議で、「博覧会までは、国際博推進局でお世話をしたい」という意見表明があったと記憶している。県庁内では、まだ調整出来ていないと思うが、その間は、次へ進めないということでは、この会合が足踏みしてしまうので、その辺りを説明して欲しい。

愛知県

- ・県のたたき台をつくる場合に、基礎的な検討材料として、「ふれあいの森」を参考として、積み上げていることをご理解いただきたい。
- ・次回またはその次までには、私どもから、2005年まで、2005年以降の方向性の案を出させていただく。そういう方向性を理解していただければ、私どもが2005年までに必要なことをする。また、管理運営についても議論していただき、2005年以降スムーズに移管していきたい。
- ・部局が決まらなると進まない、また検討会が進まないという問題ではなく、検討会である程度方向性を示していただくことと並行して、2005年以降、海上の森を担当する部局を決めていかなければならないという意識は、当然県庁全体で持っている。

馬宮委員

- ・座長が「海上の森はみすぼらしい」と言われたが、海上の森は、例えばシデコブシは、それほどたくさんないし、他の地域に比べてみすぼらしいことは、私も承知している。しかし、ここは東海要素の南限に近く、そういう意味で、端のところは、非常に大事だと思う。
- ・数が少ないとか、みすぼらしいからあまり価値がないということではなく、里山というのは、それぞれの場所で人や生活に関わっており、非常に大切であり、それぞれの方法で守っていかなければならないと思う。
- ・ある程度木を切っていかなないと里山が廃れてくるし、多様性がなくなってしまうので、木を切ったり、間伐したりするのは必要だが、それ以外は、自然のままにしておくのがいいと思う。
- ・出口委員が「カタクリの丘」ということをおっしゃっていたが、本来あったものをなるべくそ

のまま残して、他のものは持ってこないように、そういう自然な形で保全していくのがいいと思う。

木村座長

・私が「みすぼらしい」と言ったので立場を悪くしているが、これを撤回する気はない。私が「みすぼらしくなった」と申し上げたのは、鈴木委員が「かつてはそうでなかった」とおっしゃる、その視点が大事だと申し上げているのであり、「今みすぼらしいから、この森はどうでもいい」とは、一言も申したつもりはない。あるいは、「ここに繋がる里山の中で、ここが特別にみすぼらしいからどうでもよしい」と言っているものでもなく、むしろ、現況がそういう状況になっているからこそ、これを何とかしなければいけないと思っている。

・どういう里山になれば、本来なのかという時には、非常に議論が別れる。馬宮委員が「あそこにカタクリがあったか、なかったか」とおっしゃったが、その真相は分からない。実は昔、あったかもしれないし、なかったかもしれない。今の時点で調べてあった、なかったではなく、ものすごく長い復元過程の中では、何が入り込んでくるのかは、分からない。

・いつの時点で切って「典型的な里山だ」とは、言えないので、時間軸で変わっていく全体を見通さなければならないと思う。里山を復元していくにあたって、今の海上の森は、相当程度にみすぼらしいと思う。

・シデコブシについても、非常に変種性の高い植物であり、確かに南限だから一個体であっても大事であると思う。そのことと、私が言った「みすぼらしい」ということを結びつけて申し上げるつもりはない。

・長いスパンで植物でも動物でも動いていく、その動いていく全体を認めていかなければ、本当の里山というのを理解出来ないと思し上げておく。

波田委員

・ずっと刈り取りを続けないと保護、保全出来ないものを、ずっと持続しなければならないというのは、一番困難な話である。ササユリも、同じ場所で五年以上は、生えないタイプの植物であり、きれいに花が咲いているのは、五年位前にそこを刈っているからである。農作業とか森林管理をやっていれば、どこかにササユリが咲くので、その辺りをトータルでやっていけば、いいと思う。

・里の範囲は、何をやっても自由だと思う。桜や梅が咲いているという非常に人工的な景観と、だんだんイエローゾーンがあってグリーンゾーンがあるという、ゾーネーションの問題である。

馬宮委員

・先日鈴木委員に講演をしていただいた時に、彼が子供の頃には、林端部にササユリがいっぱい咲いており、それを学校に持っていったという話を聞いた。だから、茂りすぎている林を間伐したり、林縁部の笹や竹を取り除けば、ササユリも自然と出てくるという気がしている。

木村座長

・その意味で、場の時間軸に応じた変化が繰り返されるのが里山とだ思う。

加藤（裕）委員

・海上の森の話になると、そこに生えている草木の話に集中しがちだが、この検討会では、別の話があってもいいと思う。海上の森というのは、瀬戸の地域の森であり、草木の話だけではなく、地質とか、住んでいる人の営みなどを、ここから学ぶこととしてはどうだろうか

加藤（倫）委員

・横浜自然観察の森では、人為的に攪乱して、植物の構成層を変えたりしており、そこに出てくる生物層も変わってくる。里山と人というのは、人間が生産とか生活する中で、ある程度自然を攪乱しており、攪乱している中で複雑な生物層が出来てくるという部分もある。

・海上の森で今後特に取り組んで欲しいのは、人間と自然との関わりを動態展示していく姿を見せたい。現実に自然も人間も生きており、一番その関わりが出てくるのが、里山であり、海上の森の役割は、そういった部分だと思う。

木村座長

・みんなよく似た意見になってきている。どう取り扱うにしても、人間に関わるということが前提である。一番大事なのは、ある一つの地域をユニフォームしてはダメで、多様なフレーズをいつも残しておくということである。だからこそある一定の広がりが必要だと思うし、ある一定の広がりの中で色々なフレーズのものが見えてくるのだと思う。いずれにしても、色々な段階の色々な時間軸の自然を同時に保持出来るような面積的広がりをちゃんと持っていることが、非常に大事だと思う。

賀来委員

・今回の「里山学びと交流の森」が、将来的に調査研究的なことをどこまでやるのかを、まず議論していただきたい。そして、「里山学びと交流の森」の事業範囲も議論していただきたい。

・もう一つ、海上の森を一地域として捉えるのか、愛知の里山として捉えるのか、あるいは日本の里山として捉えるのか、この辺りも非常に重要である。同じように、県の恒久施設は、海上の森のみのことを扱うのか、海上の森を一つの例題として、中部地域の里山のことを語るのか、あるいは全国の里山のことを訴えるのかを議論していく必要がある。

・前回も申し上げたが、博覧会との関わりも、是非話し合っていたいただきたい。博覧会のいいところは、色々な試みを一つの旗印のもとに出来ることである。その中には、失敗することもあると思う。色々な実験をやる場が、博覧会だと思うので、もちろん中間段階だが、博覧会時に海上の森でどんなことをやるのか、決めていただきたい。

木村座長

・事業範囲をどうするのかというのは、どういう里山として位置付けるかだと思う。そのことは、施設との関わりで、次の話題で議論したい。博覧会との関わりで、会場外で何が出来るのかというお話だと思う。

・例えば、パイロット事業で田んぼをやろうとしているが、この時には、二つの方向性があると思う。昔ながらの里山らしい田んぼを再現する方向と、里山が成り立ってきた、近代農業に

ないような新しい形を展開する方向があると思う。そういう実験が出来ればいいが、「そういうことをやってはいけない。昔ながらでないといけない」と言う方がいるかもしれないので、その辺りをきちんと煮詰めておく必要がある。

津田委員

- ・資料1の表だが、私のところの内容があまりにも薄いし、他の方のところも、まとめ方がよくない。こういう並べ方では、話がまとまらない。
- ・「里山学びと交流の森づくりの理念と方向性」「恒久施設の役割と計画の方向性」「博覧会までの森づくり」「博覧会後の継続的な森づくり」という四つの軸だけにして欲しい。
- ・何の話をしているのかということのを常に明らかにしないと、いつも行ったり来たりで、非常に散漫な議論にしかならないと思う。
- ・一番目の理念のところも、すぐにはまとまらないかもしれないが、色々な話をしながら、まとめていく。例えば、意見を聞いて、座長が原稿を書いてくださるとか、そういうこともしていかなければならないと思う。

木村座長

- ・理念と方向性の話は、どこまでいっても、行きつ戻りつすると思う。理念の話は、ずっと議論してきたかのようなのだが、ほとんど議論したことはない。
- ・博覧会前の森づくりが、本当にあるのだろうかという時間のスパンであり、ともかく壊れてしまっている部分を早く何とかしなければならぬ。これは、まさに地域整備として、早くやらなければならない話である。
- ・座長がこんなことを言っただけではいけないが、2005年に博覧会へ来た方が、海上の森を歩いて「ああ、いいところだね。ここで色々なことが勉強出来るね」という程に、整備が出来るという自信は、全然ない。しかし、私達の取り組みは、見ていただきたいと思っている。
- ・その後の継続的な取り組み、森づくりについては、非常に時間をかけて議論を煮詰めていかなければならないと思う。
- ・このように何回か議論が進めば、近いうちに理念と方向性については、取りまとめ出来ると思うが、今日はもう少し時間をいただきたい。

出口委員

- ・海上の森の現状は、至るところで土砂崩れが起き、川の方も大変に痛んでいるので、それを修復するのがまず第一である。とても外から来ていただいた方に見ていただけるような状態ではない。
- ・一月二十七日にまちづくり協議会で、現地観察を実施し、山の中が真っ暗だとか、とても荒れていることを実感して帰ってきた。だから、山口の場合は、いつになったら手を付け始めるのかという思いである。
- ・ササユリの件は、地元の方から、かつて山間の水田の脇に、毎年すごくたくさん咲いていたということをお聞きした。地元の方が、年に何回か笹刈りをされて、毎年五～六月には、花が

咲いていたそうである。ここ十年程、全く手付かずになっているので、取り敢えず笹を刈って、場所をつくってあげれば、多少なりとも出てこないかという思いである。

- ・二年前に、まちづくり協議会で里山保全をやった経緯がある。その時、たくさんのカンアオイがあり、「一本も踏むな」ということを言われたが、専門家から、「お日様を当ててやらないと、大きく伸びない」ということを教えてもらい、森林整備が大事であるということを知った。去年、森林保全をしたところも、素晴らしい森になっていた。そういうことを分かっていたら、保全も早く進んでいくと思う。

木村座長

- ・これは、森づくりというよりも、活動プログラムをしっかりつくって、活動団体をどう育成していくのか、私達がどう参加していくのかと言わざるを得ないのかもしれないが、そういう話になると思う。

- ・出来れば次回、四月に入ってから、具体的にどんな活動が出来るのかという議論をさせていただき、活動を始めたいと思っている。五月、六月に入れば田植えが始まって、里の作業が始まる時期なので、そういう時期の前に、話を深めていきたい。

大竹委員

- ・博覧会までに何をすべきかというのは、博覧会会場から周囲の森をどこまで見せるのかということだと思う。会場からのトレイルがきちんとあるのかどうか、何を見せるのか、ということを考えなければならない。

- ・この間も山に手を入れていかなければならないので、その復元の過程を見せるのか、現在の自然を見せるのか、里山の生活を見せるのか、どの範囲を見せるのかを決めるだけでも、恐らく大変なことだと思う。

- ・そのためには、愛知県の自然観察指導員や地元で観察会をやられている方々があり、野鳥の会の方でも、自然を見せる試みをやっており、それらを統合し、ボランティア全体が集積しなければならない。

- ・海上の森全部にまたがるという話だと、取り組む範囲が広がってしまうので、博覧会までにはとても出来ないと思う。博覧会の時にどこまで見せるかを、考えていかなければならない。

木村座長

- ・博覧会で、里山を見せるということになると、会場から外へは行けないので、全然別の形でルート開発をしなければならない。自然を見せる部分もあるし、同時に瀬戸の特殊性で、陶磁器の歴史、古窯もあるが、それも海上の大きな特徴であり、多様なルート開発の仕方があると思う。

- ・その見せ方と、2005年までに海上の森をどうメンテナンスするのかという話とが、上手く絡み合うかどうかという問題がある。海上の森をどう変えていくかではなく、つい数年前までどう戻して維持していくのかという話が、そのプログラムづくりと非常に密接にリンクしてくる。

- ・時間がなくなってきたので、この話はここで一旦打ち切って、もう一度整理したうえで、次

回提示させていただきたい。・前回、発言の機会がなかったので、傍聴者に発言していただきたい。

傍聴者

・緊急にやらなければならないこととして、竹林に早く手をつけないと、特に里の東の方や四つ沢の周辺がひどい状態になっており、早く決めて、具体的に動き出していきたい。

木村座長

・この検討会でいちいち議論をしなければ進めないという話ではない部分がたくさんあるので、是非プログラムをつくって、ここに出していただければ、進められると思う。

・一番目の議論は、この辺りで打ち切らせていただく。次回は、もう少し議論を絞った形で進めたい。

(2) 海上の森の恒久施設について

事務局

・資料2「里山学びと交流の森の拠点施設に活用(案)」について説明

木村座長

・2005年以降の拠点施設が、博覧会時にどう活用されるのかという話と、これから議論していく内容とどれくらいリンクさせるのかという問題がある。もう一点、拠点施設は、海上の森の行き帰りに立ち寄ってきちんと活用出来る施設でありたいと思うが、残念ながら体験活動フィールドと拠点施設は完全に切れており、どんなルートで繋げるのかに一工夫が要る。その問題が解決出来れば、博覧会でどう見せるかという話は、解決出来ると思うが、そのところは、私にも上手く見えない。

・「里山学びと交流の森ゲート施設」がどういうゲートになるのか、これも相当な議論が必要であると思う。その辺りが、皆さん共通にもっている、素朴な疑問だと思う。

津田委員

・私は、前回提出した書面では、「基本的に遊歩ゾーンは要らない」「根拠が全然明らかでない」と言っており、あり方論は言っていない。

・どうしてゲートが必要なのか、人の流れをどう考えているのか。拠点施設の位置付けは分かるが、展望台、展望広場、駐車場が、何故ゲート施設になるのか。前回も反論があったが、全然意味が分からなかった。

・私は、このゲート施設は必要ないと思っている。森を楽しむのであれば、本当の森で楽しむ方がいいので、展望台や展望広場で、森を楽しめるとは、思えない。「このゲートに至る県道を整備すること自体も疑問である」と前回も申し上げた。もう一度、その辺りの検討をお願いしたい。

木村座長

- ・博覧会との絡みで、まず県からご説明いただきたい。

愛知県

- ・これは博覧会計画の中で出てきた内容であり、その跡利用として「里山学びと交流の森」のゲート施設にする。
- ・南側からゲート施設に入ってくる県道と、北側から拠点施設に入ってくる市道があるが、一番利用頻度の高いルートは、南側のグリーンロードから県道を利用して入ってくるルートになると思われるので、ここをゲート施設として位置付けた。
- ・ここは、博覧会で展望広場として使った部分を駐車場とする。ここから拠点施設へ入るルートもあるし、ゲートから直接森へ入るルートもある。既存の道を使えば、ここから森へ入っていくことも出来る。これらの点で、ゲート施設的な意味合いを持つところとして位置付けた。
- ・ここは、単に入口として、どんなところなのかを知る程度の場所であり、実際の活動や体験をする場合は、背後に控えている森の地区、里の地区で体験学習や実地活動、参加交流等を図っていきたいと考えている。

津田委員

- ・これは基本計画に載っていることであり、もし、これが要る、要らないという議論が出来るとすれば、協会と議論しなければいけないのか。

愛知県

- ・ここは、当初、国の施設があったところだが、魅力度の問題や自然環境等の問題から、万博時と「里山学びと交流の森」でどう利用するかを、協会や県等が議論した結果、遊歩ゾーン自体を「里山学びと交流の森」のゲートウェイとして先行的につくり、そこを万博時に遊歩ゾーンとして利用するという事で、決定した。

津田委員

- ・協会だけではなく、県も一緒に考えたのだとしたら、県はどういう根拠でつくった方がいいと言っているのか。どういう利用価値があるのか。

愛知県

- ・「里山学びと交流の森」全体を考えた場合、南のゲートウェイとして、ここが適切であると考えた。

津田委員

- ・もし、「里山学びと交流の森にとって重要だ」と言うのであれば、この場できちんと議論しなければならない。

愛知県

・博覧会基本計画と「里山学びと交流の森」全体の中で、協会と県が決めており、これを前提に検討していただきたい。

津田委員

・展望台のために、県道がアクセス道路となるのは、考えられない。
・ゲートウェイから拠点施設へは、図面に線を引けば道があるように見えるかもしれないが、ここには谷があり、沢道を下らなければならない。

愛知県

・駐車場からは、地道を歩いて行ける。現地は、上の方に緩やかな部分があり、十分歩道で渡れる。多少ジグザグに行く必要はあるが、古窯のところを通過して、県の恒久施設へほぼ平らな道が出来る。

馬宮委員

・ゲートの駐車場は、何台予定しているのか。
・駐車場から、わざわざ高低差のあるところを通過して、施設まで行くのは、面倒くさいし、それなら市道から来る方がいいと思う。

愛知県

・博覧会で展望広場として使う部分をそのまま駐車場として利用し、約二十台を予定している。当然北側から来る人は、市道を通過して来るので、拠点施設のところにも若干の駐車スペースが取れると思う。
・わざわざ急なところを歩くという話だったが、「里山学びと交流の森」は、里山であり、山をフィールドとして、体験する場所であり、公園的なアプローチとは、少し趣旨が違う。

馬宮委員

・国の恒久施設との関連はどうなっているのか。県の施設だけでなく、国の施設の跡利用に対して、この会で意見を言えるのか、言えないのか。

愛知県

・県の「里山学びと交流の森」の拠点施設と連携出来ればと思っている。国の施設が、2005年以降どうなるか、地元も含めて検討しているが、まだ結論が出ていないので、現状は、そこまで踏み込めない。

木村座長

・博覧会時のルートは、博覧会後には使えないので、別のところを考えなければならない。それが、県道であり、市道になるのだと思う。どれくらいの規模で、どのルートが一番適切なのかは、ここで議論すればいい。

・大きく楕円で囲んであるだけなので、どんな施設が出来るのか、よく分からない。その辺りをだんだん顕わにしながら、議論を進めていきたい。

愛知県

・博覧会時にどう使うのか、協会、県、瀬戸市等で、海上地区の全体的な使い方を早い時期に検討する。その時には、当然 2005 年以降のことも頭に入れて、検討していく。

木村座長

・この場所は、国の施設が出来る予定だったが、基本計画でこの計画になった。だからそれほど煮詰まって出てきたものではないと思う。

・2005 年以降、「里山学びと交流の森」の拠点施設と国の恒久施設は、地域整備と非常に絡んでくるので、瀬戸市からご意見をいただきたい。

瀬戸市

・国の施設の博覧会後の使い勝手は、我々も検討中であると伺っている。この施設は、愛知万博検討会議の中で、恒久施設としてつくることを決めており、恒久施設として残るものであると思っている。

・「里山学びと交流の森づくり」をなくして、この施設は考えられない。我々としては、この検討会の中でも議論が必要ではないかと思う。瀬戸市としては、フィールドミュージアム構想の中で、この海上地区の使い勝手については、当然将来のまちづくり計画の中で、考えており、出来ればこの会議の中で、そういう内容も含めてやっていただきたい。

大竹委員

・我々がこの会議で考えなければならないのは、この恒久施設プラス全体に広がる森のゾーンをどう考えるのか、ということだと思う。だから、このゲート施設がどういうものか、ある程度分かっていないと困る。

・今までの例からいくと、ゲート施設というのは、ほとんど何もなく、広場のようなものが出来上がってしまう可能性が多分にある。まして展望台と駐車場だと、一体どういう形になるのか、全くイメージ出来ない。

木村座長

・これは、行政の用語として、「施設」という名前を使っているだけで、ゲート施設の、いわゆる施設部分というのは、ほとんどないと思う。

愛知県

・「里山学びと交流の森」では、こういう形になるが、博覧会開催時は、協会が「里山遊歩ゾーン」としての見せ方を考えていると思う。

木村座長

・多分皆さんが問題になさるのは、ゲート施設と、県の恒久施設の距離の問題、高低差を含めた歩きやすさの問題、ユニバーサルデザインとしてどうかという話だと思う。その辺りが上手く煮詰まっていかないと、ここはゲートとしてどうだろうという話が、いつまでも続くのだと思う。

加藤（裕）委員

・僕の数少ない意見の中で、古窯の場を活かすとか、学習の場ということが入っており、ほっとしている。あとは、NGOやNPO、地域との連携交流ということで、これも大いに期待していたところである。

・ここから広がりを持たせるためには、地域との繋がりを活用したらどうかと思う。先程、動態保存という話が出てきたが、現在やきものを生業としている瀬戸の人達も、ある意味では、動態保存と言えるかもしれないし、地域と繋がりを持つ活用の仕方というのが、エキスポの新しい形でもあると思うので、やはり北側との繋がりも考えていくべきだと思う。

木村座長

・北側から入ってくる市道で、「里山学びと交流の森」拠点施設のエントランスまで来て、そこにも駐車場が用意されるのか。

愛知県

・北側からでも入れるし、駐車場も若干スペースが取れる。

馬宮委員

・北側の市道の幅はどれくらいで、拠点施設の駐車場はどのようなのか。

愛知県

・北側の市道は、現在四メートル程度で、九メートル程度に拡幅する。拠点施設の駐車スペースは、これから具体的な設計の中で整理していく。

木村座長

・ついここは車で来る、という発想になるが、車はあくまでも補助的手段として、愛知環状鉄道なりの公共交通機関を利用して来ていただきたい。

・博覧会のメインゲートは、八草駅だと思われるが、瀬戸の思いから言うと、やはり山口駅から歩いて行けるよ、というのがかなり重要なポイントになると思う。

・もちろん駐車場も整備しなければならないが、そういう整備がきちんとなされると、それだけに頼らないで、森へのアプローチが出来る。もちろん歩いて行けない方もたくさんいるので、駐車場の整備をやらないといけませんが、どんな人がどんな形でここへやって来るのか、ある程度の予測なり、予測を越えた誘導なりをした計画づくりをすべきだと思う。

馬宮委員

- ・「理念や活用方法等をまず最初に議論すべきだ」という意見があったが、私もそれに賛成する。
- ・大都市名古屋に近い貴重な里山であり、農林業の支えとなっている里山であり、自然の多様性があったりするので、そういうことを見たり体験したり、調査研究する施設が、あった方がいいと思う。
- ・里山に関係した施設としては、もちろん規模が大きければ、全国を視野にしてもいいが、今の財政の事情でそんなに大きな規模で出来ないなら、中部地区近辺の里山の調査研究が出来るものになればいいと思う。
- ・海上の森は、万博を契機に非常に有名になり、万博中も万博後も、見に来る人がいると思うので、そういう興味がある人に対して、情報検索や体験交流の出来る施設をつくったら、非常に有益だし、それに応えるような施設にして欲しい。そして、研究施設と学習交流の場所、二百五十人程度は入る集会室と小さな集会室も是非つくっていただきたい。
- ・コロラドのアспенには、物理と音楽の集会場があり、ワークショップや研究会にももちろん市民も参加して、そこで情報交換がされたりしている。同じように自然と接しながら、気楽に討論したり、講義を受けたり、ワークショップが出来るのが非常にいいと思う。

木村座長

- ・何百人も入る部屋が本当に必要なのかどうか。瀬戸の駅前に二か所ばかり大きなビルが建ち、集会所が持てる施設の計画が進んでおり、フィールドミュージアム構想の一環として、連携して使えばいいと思う。
- ・展示教育の部分と研究の部分は、これは抜きがたく一体であるというのは、当然だと思う。ここで展示し学習の保障をするために、ここに研究施設があるのかどうかは、別途議論をしていかなければならない。すぐ近くに愛知県立大学があるので、そこに研究機能があって、ここが具体的な展示や学習活動に活用されてもいいと思う。研究員を常駐させる予算はないでしょうから、ここにおいでになった研究者や活動者が、研究活動や標本の照らし合わせが出来るとかいう機能があれば、いいと思う。
- ・1,500 m²の中で展示教育、参加交流、調査情報を、どうシェアリングするのかを、これから議論していきたいが、時間がかかってもいいか。

愛知県

- ・基本的には、新たにつくるのではなく、出展施設が前提になる。機能的には、2005年以降の利用も念頭に置いて、設計をしていきたい。出来るだけ盛り込んでいきたいが、時間的には、あまり余裕はない。

木村座長

- ・トイレの位置とかは、変えられないだろうが、主な動線がきちんと確保されていれば、間仕切りの問題だったら、何とかかなると思うが。

愛知県

・ユーティリティ関係、風呂や台所、食堂や宿泊機能ををどうするのかといった問題も出てくる。

木村座長

・こういう施設をつくるのなら、雑魚寝でいいから、そこで一泊出来るような宿泊施設や簡単なキッチンがあればと思う。

波田委員

・宿泊施設を併設するということは、基本的には、この場でやろうと考えればOKか。やる気があるのなら、非常に面白い可能性がある。

愛知県

・念頭にはあるが、どうしたらいいかは、まだ分からない。ただ私個人としては、雑魚寝でも寝れる大きな畳の部屋があってもいいと思っている。

波田委員

・どういうイメージでつくっていくかが、霧散しているから何とも言えないが、そういう宿泊機能を持たせたらいいと思う。

・ここを通信制大学の里山大学校として、全国に学生を募集して、百数十単位を発給し、そのうちの六十単位程度を現地スクーリングで発給する。教員はどこに居てもいいので、その道の権威で、自然に造詣の深い方で誰でもいいということであれば、私は運営出来ると思う。そういう意味では、1,500㎡というのは、ちょっと狭いと思う。スクーリングへ来て宿泊となると、地元の瀬戸市も経済的に潤うだろうと考えていた。

・少し話が飛躍しているかもしれないが、ネガティブに考えるほど、赤字だと思う。逆に、積極的にいけば、万博の時点までにこれからが楽しみだと思わせれば、可能性はある。ただ、今までの議論を聞いていると、こんな話は場違いとも思う。

木村座長

・波田委員がおっしゃった大学校という話は、実に面白い。県内の四十四大学で、単位互換における包括協定をつくり、ゆくゆくは、学外共同授業をやろうという話になりつつある。そういうものと上手くリンクしていけば、以外と上手く見えてくるかもしれない。何もここで自然の学習だけをしなくてもいいので、色々な形で活用の仕方があると思う。

・そのような拠点施設として活用出来るスペースは、1,500㎡ではきついと思う。その辺りは、瀬戸駅前のビルとか、その近くに（仮称）産業・市民センターが出来るので、ここだけで全部完結させるのではなく、周辺も上手く活用しながら、海上の森と繋いでいく、プログラムづくりを是非やりたいと思っている。

波田委員

・地質、地形、動物も含めて、それにプラス人間、文化、社会、歴史というような、そういうものが全部まとまったものが、一つの里山と言うか、一つの里と言うか、一つの地域であると思う。

・そういうトータルの話であり、どうにかして有機的に繋がなければならないと思う。そこを上手くアレンジすること、それがあある意味では、一つのコンセプトになると思う。総合的なことが分からないと、一つの地域というものが理解出来ませんよ、というコンセプトは、恐らくどこでもやっていないので、それは万博に値する話が出来るかもしれない。

・先程の宿泊施設の話で、タヌキやネズミを見ようとする、必ず夜の観察になるので、少なくともゴロ寝が出来る程度の施設が欲しい。それから色々な作業をすると、シャワーを浴びて帰れるような施設が最低限のところだと思う。瀬戸市周辺に色々な施設があって、ここは自然とコンタクトをとる拠点施設というイメージで、私は捉えている。

大竹委員

・全国規模の話となると、逆に言えば、何故ここなのかという話になってしまうので、あくまでも海上を中心にして考えるべき問題だと思う。

・拠点施設の話で、是非理念の中に調査研究を入れて欲しい。これまでの調査資料というのは、過去の資料でしかない。里山というのは、常に変わる、変化が激しいところであり、その情報をきちんと集積出来る体制を整えるためには、研究を欠かしてはならない。

・研究施設をこの中につくるのではなく、研究する空間をつくるということである。ここに研究員を置くのではなく、色々な連携の上において、そこに来て研究出来るような空間をつくる。あくまでもフィールドであるという位置付けの中で、その拠点施設があるという考えである。

・大学では、こういう地味な研究は、論文にならないので、もっと別の研究をすると思う。そういうものが大学でやられるというのは考えにくい。

・ここに来て、研究すること、その地域に密着した形での研究が出来る空間をつくることが重要である。だからそこに研究室をつくるか、研究員を配置するというのは、別の問題だと思う。

・国立公園でいえばビジターセンターのようなもので、そこに全てを備えるというのは不可能であり、必要なところは、他の施設と連携づけて、考えるべきだと思う。

木村座長

・私も大学で研究すればいいと思っているのではない。すぐ隣に愛知県立大学という立派なものがあって、それと無関係である必要はない、何とか連携させたい、という思いで申し上げている。

・宿泊施設についても、ここで一晩過ごしたかったら過ごせるという保障さえあれば、それでいいと思う。多目的スペースがあればいい。

津田委員

- ・要するにあそこで困るのは、休みたいのとちょっと温かいものを飲みたい時にそれが出来ないの、そういったことが出来ればいいと思う。
- ・南地区は、場合によっては、展望台とかではなく、キャンプが出来るスペースとして利用するという点でも、いいのではないかな。

木村座長

- ・キャンプ場というのは、火があるので、なかなか難しいと思う。むしろ銭屋鋼産の辺りにつくった方がいいと思う。

馬宮委員

- ・万博後の海上の森も非常に注目を集めると思うので、国立公園のビジターセンターのようなもので終わってしまったら非常に情けない。
- ・学習と研究と参加交流の場所とし、資料だけではなく、そこで世話をしたり、案内をしたり、コーディネートをするような人も配置してもらいたい。ここに行けば、何でも出来る、最近の事例は全部分かるという施設をつくって欲しい。

木村座長

- ・それは、ハードの部分ではなくてソフトの部分だと思う。プログラムをどう膨らませていくかが重要なポイントであり、それが実現出来るような組織づくりをしていけばいい。

傍聴者

- ・沢が助かった時に、何故ゲート施設が必要なのかという理由として、この背後を里山公園として考え、そのためのゲートであるということも位置付けている。私は、そこで初めて県の明確な答えが出てきたと思った。
- ・せっかく後継機関としてみんな繋がらなければいけないのに、何故フォローアップの資料が推進局の方から出てこないのか、非常に不思議な感じがする。また、どんな制度があるのか、資料を揃えていただきたい。

愛知県

- ・「里山学びと交流の森」のゲートウェイというのは、自明の理ということで話していたので、説明が落ちていたのであれば、誠に申し訳ない。
- ・制度的な問題についてはともかく、「里山学びと交流の森」として整備していくのが、県の方針であり、それはご理解いただきたい。

木村座長

- ・時間が超過しており、本日の議論は、ここで終了させていただく。次回からは、要点を絞って議論を深めたい。

3 . 報告事項

- ・ 「里山学びと交流の森づくりパイロット事業」の結果について報告
- ・ 次回は、新年度の四月下旬、もしくは五月上旬頃をお願いしたい。
- ・ 議題は、今日議論していただいた「里山学びと交流の森」の方向性をまとめたものをお出ししたい。その他に、博覧会での活用案、具体的な整備の方向についてまとめたものをお出しして、議論をしていただきたい。
- ・ これをもちまして、第3回「里山学びと交流の森検討会」を終了させていただきます。ありがとうございました。

- ・ 閉会